

第4回検討委員会の振り返り

(第4回上山市みらいの学校構想検討委員会 会議要旨)

■開催日時

令和7年6月30日(月) 18:30~20:30

■報告事項

(1) 第3回検討内容の振り返り(今後の検討の進め方、構想骨子案)

質疑・意見等なし

■協議事項

(1) 上山市みらいの学校構想(案)について

- ①学校統廃合の議論はスピード感が求められている。意見交換会やアンケートでいただいた学校の統合を強く望む声や他市に比べ取組の遅さに対する批判を真摯に受け止める必要がある。本委員会で統合時期を決定はできないが、おおよその目安となる時期を示すべきである。
- ②現在子ども達だけでなく、将来子ども達にも責任を持つ必要がある。今できることと将来に向けて取り組むべきことの両方を考えていかなければならない。
- ③学校統廃合については、地域をはじめ多数の関係者がいるが、当事者として子どもに対し責任を持つ保護者の意見や考えを尊重することが大事。

(2) 小中学校の統廃合案について

1 学年における学級数・学級人数について ※第5回資料3協議経過(論点)の整理 で協議

- 1学級25人以上・1学年3学級以上という方向性は、令和6年度一年間かけた意見聴取(意見交換会、アンケート)をもとに、検討委員会で協議を重ねて決定されたもの。理由として、子ども達への教育や社会性育成などの観点から最も適切と判断された経緯がある。
- 早い時期に小学校が統合した場合、1学年5クラスでは学年運営が難しく、学校経営方針との整合性を考えると、2~3学級の方が個性や方針を活かした指導や学年運営がしやすい。
- 今一番大きな課題が「子どもの多様性」。1学級35人の中に、本当に色んな個性を持ったお子さんがいるので、1学級はあまり多い人数でない方が良いのではないかと。

複式学級について ※第5回資料3協議経過(論点)の整理 で協議**総論**

- 「複式学級」という視点を、統廃合のスピード感を大事にするというときに、どのような基準・取扱いとするかを協議した方が良い。
- 全国的に僻地・小規模校、複式学級は減少している。残っているのは、離島で物理的・土地柄的に学校統合が難しい地域。東北でも学校の統廃合は進み、複式学級は減ってきている。

保護者の視点

○複式学級は、学年は違っても学級の友達が増えることは良い。学級人数が 10 人より少ないと子どものコミュニティは広がらない。10 人を超えると、友達関係が新しく構築される。友達間でトラブルがあっても、10 人を越えれば他の友達もいるので何とかなる。少人数学級から複式学級にいくメリットはある。

複式学級を経験したことのある教職員の視点

○複式学級は児童数が増える点では子どもにとってメリットがあるが、教師にとっては指導が大変であり、複式学級の経験が少ない教員が多いため、教育の質を確保するには課題が多い。
○毎日・毎時間、複数学年にわたる教材研究や指導、児童の成長把握など教員負担が大きい。
○教員人材の不足や成り手が少ないなか、複式学級を担当できる教員の人材育成、その養成指導にあたる人材を確保するのも大変難しい時代である。

児童として複式学級経験者の視点

○複式学級では異学年と共に行動することで自主性や後輩への教え方が身につくというメリットがあったが、大人数の中学校に進学すると数か月は環境の変化に戸惑った。環境の変化に適応できず不登校になる生徒もいた。複式学級当時の先生方の話を聞くと、相当大変で、複式学級の教育の難しさを感じることもあったと思う。

学校統廃合について ※第 5 回資料 4②構想（案）第 4 章・第 5 章に反映

小学校

○最終的な 1 校統合を見据えて検討を進めるべき（段階的・一気に進めるかは意見が分かれた）

総 論

- ・中川小学校は上山小学校との早期統合を望む保護者が多い。子どもの課題はもちろんだが保護者会・行事運営を担う保護者の負担も大きい。
- ・柔軟性、適応力のある小学生時に学校統合を進め、統合後の中学校に進学させた方が良い。

1 校統合案

- ・最終的に 1 校になることは現時点で明らか。2 校統合案で進めた場合でも、さらに少子化が進行すれば、やはり 1 校にすべきだとの議論に逆戻りする可能性が高い。
- ・2 校への統合でも時間と労力がかかり、最終的には 1 校統合が避けられない。今分かっている問題や保護者の負担を、先送りせず最初から 1 校に統合すべき。
- ・2 校統合案では市民の望む「1 学年 3 学級以上、1 学級 25 人以上」を確保・維持できない。
- ・統合時期の基準、ラインを考えていかなければならない。10 年以内だと思う。
- ・小中学校を併設した 1 校を新設した方が良い。安全安心な環境と通学手段が確保できれば、小中一貫教育校を実現してほしい。

- ・数年後には、検討に関われる大人の数も減少しているし、**小学校の統合を再検討する時間**などない。**最終的なビジョンを共有して取り組んでいくことが大事。**
- ・**段階的統合より、最初から1校統合を目指して最大限の取組を行い、デメリットに随時対応・改善した方が、子ども・保護者・地域にとって最大公約数（全体最適）となる。**
- ・中川小学校の統合先は、10年後に1学級化が見えている上山小学校ではなく、最初から人数の多い南小学校に統合できないのか。**2回も統合する負担やコスト面も考えて欲しい。**
- ・既存校を活用する場合、令和12年度以降は、教室数が各学年4学級以下になる。そこを目指していけば良いのではないかな。
- ・上山小学校が新しい。運営コスト面からも統合先は上山小学校が望ましいのではないかな。

2校統合案

- ・**運営コストを考えれば、いち早く2校統合へ。その後1校に統合が良いのではないかな。**
- ・中川小学校は、早く上山小学校に統合し、段階的に2校から1校統合で良いのではないかな。
- ・1校統合パターンが良く思えるが、**児童生徒が徐々に環境に慣れていくことを考え、段階的に2校に統合した方が良いかとも思う。**

中学校

○**早急に1校に統合を進めるべき。**

- ・教育と学校生活の質の確保、多様な人間関係の上での社会性の育成のためにも、一定の規模・集団が必要
- ・選択肢のある集団活動や教科担任の確保のためにも1学年3学級以上は必要
- ・小学校に比べ老朽化が著しいこと、老朽化に伴う修繕費用など費用対効果を考えるべき

統廃合時に配慮すべき事、教育のさらなる充実のために統合までに取り組むべき事

※第5回資料4②構想（案）第4章・第5章に反映

○安全安心な通学経路・通学手段の確保

○保護者・地域関係者への周知と合意形成・不安解消

○大規模校に変更となる小規模校の子どもへの支援充実（事前交流、馴染めない際の支援等）

○地域学習カリキュラムの充実、統合校への地域意識の醸成（地域コミュニティ希薄化防止）

○PTA等の保護者組織の新設

○放課後の児童の居場所確保（放課後児童クラブ、放課後子ども教室等）

○統合校における教職員の指導体制の確保（学年チーム担任制、小学校の教科担任制等）

○どのような教育を行うのか前向きなビジョンの共有が大事。教育は子どもの未来を創る重要な仕事。学校の統廃合、新設はその実現手段の一つであり、後ろ向きなものではない。

※廃校の具体的利用策、学校を新設する場合の具体的な土地やコスト、教職員定数等は、今回の構想・答申に盛り込まない事を確認。